

# 2017年1月 定例自然観察会 報告書

## (テーマ：新春の須磨 鉢伏山の植物を楽しむ)

六甲山自然案内人の会 1班

### 1. 概要

(1) 実施日時 2017年1月8日(日) 9:30~12:50 天候 少雨のち雨

(2) コース 当初予定では、JR 塩屋駅を出発→尾根道→須磨浦山上遊園→旗振山→鉢伏山  
→山腹道を経て、一ノ谷へ行き、最後は須磨浦公園で解散を予定。

#### 【実施結果】

JR 塩屋駅 (集合) →JR 沿線路沿い→登り口広場→広場→尾根道  
→ウバメガシの林→須磨浦山上遊園休憩所 (昼食)  
→旗振山→鉢伏山→須磨浦ロープウェイ山上駅 (解散)

(※) 天候不良によりやむを得ず、須磨浦山上遊園にて残りの観察の中止を決定。  
須磨浦ロープウェイの山上駅にて解散となった。

(3) 見どころ (当初予定)

塩屋から旗振山の道中では、海岸近くで見られる照葉樹林の樹木を観察します。  
昼からは鉢伏山の山腹道を通り、源平合戦で源義経が駆け下ったといわれている  
一ノ谷を下り、一ノ谷のウバメガシ群落を楽しみます。

### 2. 実施

(1) 参加者 ビジター9名+会員28名=37名  
(参考) 12月25日(日) 自主研修参加者 会員37名

(2) 配布資料 コースMAP

(3) 説明担当 ビジター対応：2グループ構成  
会員対応：2グループ構成

(4) 時間 JR 塩屋駅 (出発 9:45) →登り口広場 (10:05~10:35)  
→ウバメガシの林 (11:20~11:30)  
→須磨浦山上遊園休憩所 (11:50~12:20) →旗振山→鉢伏山  
→須磨浦ロープウェイ山上駅 (解散 12:50)

### 3. 観察会のポイント

- 塩屋から旗振山の道中で、海岸近くで見られる照葉樹林の樹木を中心に観察した。
- 登り口の広場にある大きなクワの木の下で、クワの木と地図記号について説明した。
- 道中では照葉樹のモチノキやヤブニッケイ、ヒメユズリハなどを樹皮や葉を見ながら特徴を説明した。
- 須磨浦山上遊園にて、旗振山の旗振の名前の由来について説明、また須磨に由来のある俳句を詩吟で紹介した。
- 当初の予定では、鉢伏山から山腹道を経て、一ノ谷へ行き、最後は須磨浦公園までを予定していたが、天候不良によりやむを得ず、須磨浦山上遊園にて残りの観察の中止を決定。須磨浦ロープウェイの山上駅にて解散となった。

### 4. 観察記録

#### (1) JR 塩屋駅～登り坂

フウセントウワタ、マサキ、ユズリハ、ビロ

#### (2) 登り口広場

マグワ、アマチャヅル、トベラ、シャリンバイ、ウバメガシ、コバノガマズミ、カクレミノ

#### (3) 登り口広場～鉢伏山

ムクノキ、エノキ、モチノキ、コナラ、アベマキ、ヒメユズリハ、ヤブニッケイ、ヤマモモ、アカメガシワ、ウラジロノキ、ハゼノキ、クロガネモチ、ヒサカキ、カクレミノ、カゴノキ、ソヨゴ、シャシャンボ、ウバメガシ

### <記録写真>

○JR 塩屋駅での準備体操

(カクレミノじゃんけん体操)



○JR 線路沿いにあるフウセントウワタの観察



○大きなクワノキの下で説明。皆、熱心に聞かれていました。



○冬の雨の中での観察と説明



○お昼に観察中止を決定



## 5. 感想

- (1) 六甲山系の西の端にあたる須磨の山々、また海岸近くでよく見られる照葉樹林の樹木を中心に観察と説明を行った。冬の樹木の有り様やドングリや落ち葉と準備した資料と見本を使って説明を行うことで、ビジターからは楽しく学べたとの評価を得た。
- (2) 当日の天気予報では雨であり、参加者が集まらないことが心配されたが、9名のビジター、28名の会員の参加があり、担当班として観察会を行えたことは良かった。
- (3) 観察会の開始から少雨で天候が危ぶまれたが、残念ながら悪い予感があたり、お昼前から本降りとなった。したがって観察会は午前のコースで終わりとして、昼食後に解散することとした。観察、説明がやや省略の形になったことが残念だった。
- (4) ビジターの参加人数が少なかったことから、予定していた5グループ体制から2グループ体制に変更して説明を実施。ビジターからは詳しく近くで話を聞けて良かったと満足いただけただけ一方で、会員への説明班を担当班から出しても良かったとの意見もあった。

記 1班 池内